

令和7年度《学校経営計画》

名張市立薦原小学校 学校長 田中 朋子

1 学校教育目標
持続可能な未来を拓く「あ り が と う」の学校をつくる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像	
○学校像	①子どもが感謝の気持ちをもち心豊かに育つ学校 ②誰一人取り残さない、安心・安全な学校 ③保護者・地域から信頼され、学校・家庭・地域の総ぐるみで子どもを育てる学校
○児童・生徒像	① あ：「ありがとう」や「あいさつ」が進んで言え、基本的な生活習慣が身についた子 ② り：りこうな子（わかる楽しさ・学ぶ喜びを実感できる子） ③ が：がっちりつながる子（子どもどうしのつながりや地域とのつながりを大切にする子） ④ と：友だちも自分も大切にする子 ⑤ う：運動が好きな子
○教職員像	①一人一役を担い、互いに支えあい、組織的に取り組む教職員 ②子どもたちに愛情や責任感をもち、全児童を全職員で育てる教職員 ③保護者や地域の声を大切にし、信頼される教職員 ④あいさつを進んで行い、健康で活力あふれる教職員
○保護者・地域像	①学校と情報を共有し、学校と共に子どもの成長を支える保護者 ②学校運営協議会を基盤として多くの地域ボランティアが参画し、学校と共に子どもの成長を支える地域

3 学校の現状	本年度の改善方策
【児童】 ・地域の方の温かい見守りがあることで、感謝の気持ちや相手を思いやる優しい気持ちが育ってきている。 ・学習規律を守り、落ち着いて学習できる雰囲気がある。また、自分から挨拶できる児童が多い。 ・算数・国語の学習内容がわかると感じている児童が多い。 ・縦割り班活動や児童会活動が充実し、異学年間やかかわる機会が多くあるため、高学年が良い見本となっている。また、学年を超えて誰とでも仲良く協力することができる。 ・「人の役に立ちたい」と思う児童の割合が高い。 ・友だちとの関係をうまく築けなかったり、不安感から学校を休んだりする児童もいる。家庭や関係機関と連携し、よりよい支援の在り方を検討していく必要がある。 【保護者・地域】 ・学校運営協議会が主体となり、「寺子屋こもはら」「防災キャンプ」等、子どもたちの安心につながる取組が展開されている。	①学校教育目標の具現化にむけ、すべての教職員が自分の役割に責任をもち組織的・計画的な学校経営、学年・学級経営を進める。 ・一人一役13の重点目標実現に向け、児童アンケートを年2回実施し、その結果を分析することで、具体的取組を推進する。 ②「わかる喜びを感じ、主体的に学ぼうとする子の育成～どの子もわかる・できるをめざした授業づくり～」をテーマに研究を深める。児童が学びに向かうことができるよう、安心でき互いに高め合うことができる学級づくりをめざす。 ③保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。 ・児童一人ひとりの理解に努め、児童・保護者との信頼関係を築き、学級集団の満足度を上げる取組を行う。 ・児童が活躍する場面を作ること、「誰かの役に立っている」という気持ちをもたせ、自己有用感・自尊感情を高める。 ・保護者の相談に真摯に向き合い、思いを共有することで子どもの成長を育んでいく。 ・学校運営協議会が主体となり、学校支援の拡充、児童が活躍できる地域貢献の場づくりを図る。

4 重点的な取組事項						
番号	内 容	実 施 期 間				
		3	4	5	6	7
1	「ありがとう」や「あいさつ」が進んで言え、基本的な生活習慣が身についた子の育成	◎	◎	◎	◎	◎
2	りこうな子〈わかる楽しさ・学ぶ喜びを実感できる子〉の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	がっちりつながる子〈子どもどうしのつながりや地域とのつながりを大切にする子〉の育成	○	○	○	◎	◎
4	友だちも自分も大切にする子・運動が好きな子の育成	○	○	◎	◎	◎

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1	「ありがとう」や「あいさつ」が進んで言え、基本的な生活習慣が身についた子の育成
A 今年度の成果目標	
①通学班でまとまって登下校できる。 ②相手の目を見てあいさつできる。 ③掃除を時間いっぱいする。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	高学年が責任をもって分団をまとめ安全に登下校できるよう、4・9・1月を強化月間とし、分団担当者が実態に応じた指導をする。【伊藤】
②	相手の目を見てあいさつできる子の育成をめざし、あいさつの大切さの意識付けを行う。また児童会・保護者・地域と連携した取り組みを行う。教師も進んであいさつをする。【伊藤】
③	時間いっぱい清掃活動に取り組む子の育成をめざし、高学年がリーダーとなり縦割り班掃除を充実させる。【井岡】

重点的な取組事項－2	りこうな子〈わかる楽しさ・学ぶ喜びを実感できる子〉の育成
A 今年度の成果目標	
④学習の内容はわかる。学校の勉強は好きだ。授業はチャイムスタートできている。	
⑤読書は好きで本をよく読んでいる。 ⑥学習内容を理解するために iPad を工夫して使っている。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
④	わかる喜びを感じ主体的に学ぼうとする子の育成をめざし、校内研修会を充実させ、授業改善を図る。3部会の取組を充実させ、授業力向上を図る。チャイムスタートを習慣化する。【高野】
⑤	読書が好きな子の育成をめざし、常に身近に本を置き、隙間の時間に読める環境づくりを継続して行う。図書委員会の活動を充実させ、読書の幅を広げる取組を進める。【二井・岡本】
⑥	学びにICTを活用できる子の育成をめざし、タブレットを効果的に使用する機会を増やす。ICT活用に関わる教職員研修を設定する。プログラミング教育の充実を図る。【伊藤】

重点的な取組事項－3	がっちりつながる子〈子どもどうしのつながりや地域とのつながりを大切にする子〉の育成
A 今年度の成果目標	
⑦人の役に立ちたいと思っている。⑧自分の住んでいる地域が好きだ。	
⑨北中学校区小中一貫教育の重点取組を推進する。(教師)	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
⑦	下級生の良い見本となる高学年・どの学年とも仲良くできる子の育成をめざし、縦割り班活動を充実させる。児童会活動を充実させ、児童が活躍できる地域貢献の場をつくる。【小幡】
⑧	地域の人に感謝の気持ちを持ち、地域を愛することができる子の育成をめざし、ESD カレンダー・CS カレンダーをもとに各学年の核になる活動を実践する。(1年) 学校林 (2年) サツマイモ作り (3年) ニッポンハナダカバチ (4年) ギフチョウ (5年) 米づくり (6年) SDGs を目指した取り組み【各担任】
⑨	北中学校区小中一貫教育の各部会での重点取組を推進する。【各部会】

重点的な取組事項－4		友だちも自分も大切にすること・運動が好きな子の育成
A 今年度の成果目標 *すべての項目において肯定的意見85%以上を目指す。		
⑩「いじめや無視はどんなことがあってもいけないことだ」とわかる。 将来の夢や目標を持っている。自分にはよいところがある。 ⑪災害時に自分の身の守り方がわかる。ケガをしないように気を付けて生活する。咳エチケットや手洗いをしている。 ⑫困った友達がいたら助けることができる。 ⑬運動は好きだ。		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
⑩	友だちも自分も大切にできる子の育成をめざし、人権カリキュラムにそった取組を進める。 人権感覚を高めるための教職員研修を行う。【井岡】 「なりたい自分」に向かって努力できるよう、「キャリアパスポート」の効果的な活用を進める。【小幡】 一人ひとりの自己肯定感向上をめざし、児童の実態にそった「命の授業」や教育相談等を実施する。【堀内】	
⑪	危機管理能力をもち危機的な状況に対応できる子の育成をめざし、防災訓練を充実させる。【岡本】 友だちや自分の命を大切にすること・運動が好きな子の育成をめざし、感染症予防・健康チェック・健康相談を推進する。【堀内】	
⑫	校内委員会を定期的に開き、児童の実態に応じた支援のあり方を考える。一人ひとりにあった支援によって、それぞれの子どもの力をつける。【岡本】	
⑬	運動が好きな子の育成をめざし、みんな遊びを進める。 体力の向上をめざし、継続して取り組める体操や運動の研修を進める。【二井・高野】	

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組		
上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	22 時間以下 (30 時間以下の範囲)
	年 360 時間を超える時間外労働者数	0 人 (変更不可)
	月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数	0 人 (変更不可)
具体的な方策	・タブレットを効果的に活用し、業務精選を行う。【伊藤・井上】 ・月 30 時間を超えた職員については面談を行い、業務の改善を進める。 ・日々の業務や行事を見直し、精選を図る。(短期の見直しと早期の改善) ・業務が平準化するよう、校務分掌や TT の入り方等適宜見直し改善していく。	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	13 日以上 (各学校で設定)
具体的な方策	・年休を取得しやすいよう、長期休業中の校内の会議を精選する。 ・日常の年休が取りやすいような職場の体制づくりに努める。	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	80%以上
	放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合	40%以上
具体的な方策	・月 3 回定時退校日を設定し、原則 17 時 30 分までに退校できるようにする。 ・会議での提案時間をあらかじめ設定し、時間短縮につとめる。 ・委員会部会は 30 分以内、職員会議・校内研修 60 分以内を目指す。	

7 コンプライアンスの推進に向けた取組	
具体的な方策	・校長・教頭及び教職員間の「報告」「連絡」「相談」と共有を重視し、必要に応じ職員で対策を検討した上で早期解決にあたる。 ・コンプライアンス研修を学期に1回は実施する。